

# 事業報告書

令和2年度



公益財団法人 紫雲会

横浜市緑区生活支援センター

## 令和2年度 緑区生活支援センター事業報告書

今年度はコロナ対策に明け暮れた1年となってしまいました。そのような状況の中、生活支援センターの長年の懸案事項であった「18区的生活支援センターにおける機能標準化」の実現が叶ったことは、全体としての最大の報告事項です。平成28年度より足掛け4年間、生活支援センターにおける「相談支援体制拡充」「アウトリーチ体制強化」「機能整理」等を目的に、話し合いと検討を重ねてきました。それらの積み上げが今回の成果物となりました。今後はこの標準化の目的をしっかりと業務に活かし、これまで以上に地域における相談支援体制の強化を目指し、また精神保健福祉活動の拠点としての機能と役割を担っていくことが出来るよう努力していきたくと考えます。

また各地域において「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を進める流れの中、昨年度生活支援センターが主導して立ち上げた緑区自立支援協議会「精神部会」では、今年度様々な企画を立てていましたが、コロナ対策を優先する中ほとんどが次年度へ順延となってしまいました。今後も緑区の地域特性である「精神科の有床病院が無い」ということを踏まえて、精神科医療機関に長期入院となっている方の地域移行支援について、「地域で受け止めていくために自分ごととしての意識を持つこと」をテーマにした取り組みを継続しています。引き続き緑区において区福祉保健センター、基幹相談支援センター、地域ケアプラザなど各関係機関との協働体制を更に強化し、地域移行の啓発推進、医療との連携強化、困難ケースの受け入れやアウトリーチ支援の体制作りなどに取り組みながら、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりに繋がる活動を継続して発信していきたくと考えます。

### \*\*\*【事業実施内容】\*\*\*

#### 1. 指定特定・指定一般相談支援事業

計画相談支援については、単にサービス利用を目的とした関わりではなく、地域において本人の希望する生活を実現するための包括的な支援を継続して実施していくことを目的とし、本人を取り巻く関係機関との連絡調整や家族調整など総合的に支援します。状況に応じた対応が不可欠なためモニタリングは重要と考えます。また、地域において相談支援事業所が増えてきている状況の中、家族ぐるみの支援が必要なケースや対応に苦慮するケース、病状が安定せず緊急対応を余儀なくされるケース、また触法ケースなど、いわゆる困難ケースに対する支援については生活支援センターが特に対象とするケースと考えており、意識的に支援を実施しています。

また、支援の質を担保するためにも、区自立支援協議会の相談部会、横浜市や各団体主催の研修等の参加を推奨し、相談支援専門員の知識や支援スキルの向上を図ると共に、対象者の支援方針、支援計画の立て方や方向性についても職員間で共有し意見交換することや、職場内において先輩職員から経験の浅い職員に対してのスーパーバイズの間を積極的に設ける等、支援する側が孤立する事の無いよう配慮しました。

その他区内の相談支援事業所の状況把握や、バックアップ体制の構築を目的として、定例カンファレンスと自立支援協議会の場を活用し、「相談支援事業所リスト」の作成、相談支援専門員向けの研修などの検討を進めました。

#### 【2年度実績】

計画相談支援 55件、相談中のケース4件

地域移行支援 2件（内1件は不調となったため年度途中で退院サポート事業へ変更）

自立生活援助 2件（内1件は終了、1件は支援延長のため自立生活アシスタントへ変更）

## 2. 地域活動支援センター事業

---

### (1) 相談支援

コロナ禍の状況が長く続き、外出出来ないことや感染への不安など、これまでにない生活上のストレスを感じる方が多くおり、数年利用のなかった利用者から「生活状況が変わった、家族の調子が悪い」などの相談が久しぶりに入り、再び支援に繋がったケースなどもありました。

コロナ禍の影響の1つとして、引きこもり（気味）の方への訪問がしにくくなる状況がありました。地域との接点を持つ事、サービス導入をしていくことなど、時間をかけて関係を築き生活設定を整える準備をしてきていたにも関わらず、訪問が出来なくなり、支援が滞ってしまうなど不安を感じさせることの無いよう、電話で確認するなど関係維持に努めました。サービスなどの支援を受けていくことだけでなく、その方の持つ力を引き上げ、利用者自身の力で自立した生活を目指すことも感染症が広がる状況下では必要なことであり、今後もエンパワメントの視点を持って関わっていきたいと考えます。

また、緑区在住で複数の支援センターを利用していた方が、服薬中断などを理由とする病状悪化により、利用する複数のセンターで対応に苦慮する状態となっていました。本人からの通院希望を汲み取り、医療機関につなげ、現在は生活の立て直しを図る支援を継続することが出来ています。このケースは今年度から18区の支援センターにおいて実施された「在住区支援」の方針により、緑区に情報が集約されたことと、在住区の利用者であったからこそその区内における関係機関の地域連携を活かすことができた支援でした。今後も地域の中での連携体制を強化し、障害や高齢などの分野を超えた相談支援体制を構築していきたいと考えます。

### (2) 訪問・同行

今年度はコロナ禍においても、必要不可欠な訪問や同行を実施しました。その際の感染防止対策には苦慮したところです。職員も利用者も同様に感染対策の徹底や必要性を常に検討することや、訪問前には電話にて本人の体調確認をするなど、出来る限り最大限の配慮のなかで支援を行いました。

感染症への不安などから訪問による支援への心配をされる方には、電話による定期的な連絡などの方法に切り替えることで、継続的な支援を心掛けました。

利用者への定期的かつ必要な訪問に加え、不穏時の訪問や緊急時の通院同行、緊急入院対応などを実施しました。また特定の利用者については、警察も出動した中怒りやパニックによる不穏時の緊急対応を行う場面が頻回にありましたが、利用者の要望に即応するだけでなく、まずは電話にて状況把握や気持ちの整理を行うなど、必要に応じた対応も実施してきました。その対応後には、本人との振り返り、関係機関との共有、職員全体会議の場において原因や対応の検討なども実施しました。

緊急対応をすべき状況の判断を見極めつつ、対応に苦慮するケースについても一定の支援方針を共有した中対応していく体制を支援センターとして取れることや、各職員がそれぞれスキルを身につけていくためにも、今後も継続して地域関係機関との連携や支援センター職場内において振り返りや検討を実施していきたいと考えます。

### (3) 家族支援

緑区家族会は新型コロナの影響で予定通り開催出来ませんでした。比較的感染状況が落ち着いている時期に、感染対策をしっかりと行った上で支援センターが会場提供を行い、またオブザーバー参加によるバックアップに努めました。今年度家族会に初めて参加された家族と面談を設定し、まずは困っている家族のタイムリーな支援を大切にしました。

個別支援では、本人と親と一緒に来館するケースもあり、登録面談を行った上で個別支援につなげる対応をしました。入院となったケースでは、親からの相談を受け、入院先の病院との調整や、退院後の生活を支えるための支援につなげました。

また、本人が不調となった結果、子どもへの虐待となっしまい、2ヶ月間児童相談所に子供を預けられた方に対しては、本人の支援をしつつも子どもが戻ってくるための家族としての環境づくりを、児童相談所、こども家庭支援課、障害支援課などと連携を取りながら行いました。

発症後間もない家族に向けては、緑区福祉保健センターと共催で「家族教室」を例年開催していますが、今年度は新型コロナの影響で開催することができませんでした。少しでもリスクを減らせる環境設定や体制を検討し、今後の開催に向けて進めていきたいと考えます。

- \* みどり会定例会・役員会 新型コロナの影響により状況を判断しながらの実施
- \* みどり会新年会 新型コロナの影響で中止
- \* 家族教室 対象：発症後間もないご家族（統合失調症と診断された方のご家族）  
新型コロナの影響で中止

#### (4) 当事者活動支援

支援センターのプログラム実施においては、「利用者と一緒に作っていくこと」を念頭に、利用者の意見を取り入れることを意識しています。今年度は新型コロナ対策のため多くの活動は中止せざるを得ない状況でしたが、その中でも感染症対策に十分注意した中、当事者の活動をバックアップしました。

行事やプログラムを実施できない中でも、センター内のショーケースや受付カウンターなどを利用して、利用者さんの特技を活かした作品展示などに協力していただきました。「手芸プログラム」においては、作品作りをスタッフが主導するのではなく、利用者同士で教え合いながら進め、また作成する作品内容やプログラムの開催日時についても、利用者と一緒に考えて決めています。

また、支援センター連絡会「ピアを考える会」には会設立初期段階より参加をし、現在ではリーダーとして、会議の運営やセンター連絡会定例会において提案を行う等の役割を担っています。研修の実施なども検討しており、生活支援センター全体のピア活動を促進させていきます。

- \* 「手芸サークル」年5回開催 35名参加
- \* 「支援センター連絡会 ピアを考える会」5回実施
- \* 「支援センター連絡会 ピア活動について」研修会（座談会）予定→コロナ対策のため中止
- \* 「精神障害の正しい理解」当事者の体験発表 ウィリング横浜主催研修

→コロナ対策のため中止

#### (5) 地域交流・地域連携

##### 【緑区自立支援協議会での取り組み】

##### ○事務局運営

緑区自立支援協議会においては、事務局として企画運営に携わっています。今年度は感染対策を講じた上で部会開催についての検討をし、5月から活動を始めたものの、感染状況を見ながらの実施となりました。そのような状況のなかでも、12月に開催した障害者週間のイベントは、実行委員会を作り、区内事業所にも参画を呼び掛け、みどり障害児者支援ネットワーク、緑区役所、自立支援協議会の主催で企画・運営を行いました。

また、次年度に向けて、区内相談支援事業所のフォローおよび、相談支援専門員のスキルアップを目的とした取り組みの検討を進めています。

## ○精神部会

生活支援センターが中心となり「誰もが高齢分野と連携出来る、そして誰もが精神や障害分野と連携出来る」をテーマに、緑区の地域づくりについての企画を考えました。ケアプラザと連携した内容であり、打ち合わせも実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大している状況により中止としました。

## ○グループホーム連絡会、研修など

新型コロナウイルスの影響がありましたが、グループホーム連絡会は比較的少人数のため、8月に開催をしました。グループホームの職員より、「グループホーム職員は一人職場であるため、やはり集まる場は相談できる場となるため大切」という意見がありました。令和3年度のグループホーム部会では、新しい取り組みとして、ネットを使った情報発信や相談の場となる仕組みの導入を検討していきます。

## 【地域ケアプラザでの交流会】

### ○鴨居地域ケアプラザ主催「包括エリア地域ケア会議」に参加

高齢者施設職員や民生委員などを対象とした包括エリア地域ケア会議に、精神障害の理解をテーマとした講義（Zoomによる開催）を行いました。

## 【地域の事業所との連携】

### ○自立訓練（生活訓練）事業所「エンラボカレッジ」主催の講座に講師として参加

主に発達障害の方を支援しているエンラボカレッジ主催の講座において、地域の相談先として生活支援センターの紹介を講義・質疑応答形式で実施しました。

## 【その他】

○例年地域においては、合築施設の特性を活かした「3障害合同のお祭り（秋のコスモスフェスタ）」や、町内会主催の祭事等を実施していますが、今年度はいずれも新型コロナ対策のため止む無く中止となりました。

## (6) 自主事業 ※詳細については【資料3】参照

行事、プログラムについては、新型コロナ対策を講じた上で出来る範囲での実施となりました。

## (7) 情報提供

法制度の情報や必要な種々の社会資源の情報（GH募集情報、就労関係、企画イベント）、新型コロナウイルス感染症について、あたらしい生活様式等、適宜様々な方法（センター便り、ホームページ、館内掲示、ブックラック等）を用いて利用者やご家族、関係機関等に提供しました。より見やすい館内整備の工夫を心がけることや、情報提供の重要なツールであるホームページでは、その中のブログ機能を活用しタイムリーな情報発信をすることができています。また、ホームページではウェブアクセシビリティに関する仕様書に基づき配慮を行っています。

## (8) その他

利用者アンケート、メンバーとの意見交換、意見箱及び利用者から寄せられた直接的な意見や質問等について職員ミーティング、職員全体会議において協議し、早急に対応すると共に、掲示や個別の対応、説明等により利用者に向けて回答し内容等を周知しました。

### 3. 退院サポート事業

※統計については【資料2】参照

今年度は14名の「個別支援」を実施し、利用者の希望する生活を目指しました。そして、地域支援者と連携をして、退院後も支援を途切れさせない関わりを実践し、地域定着への視点を意識した支援も実施しました。ケースによっては「退院の可能性を探る支援」「早期退院への支援」など、関わり方の難しいケースもありましたが、支援出来る体制を整備し、新規依頼を断わることなく事業を実施することが出来ました。

担当病院などの医療機関に向けた普及啓発活動は、新型コロナウイルス感染症予防の観点より実施が出来ませんでした。病院によっては、面会中止、病棟内入室制限などがあり、入院中の患者や医療機関の職員などとの接点が無くなってしまいました。しかし、このコロナ禍においても、医療機関内において普及啓発活動を実施できていた所もあったため、そのノウハウを学び医療機関と相談していくなどし、この状況に見合った開催方法や、医療機関との連携について模索していきたいと考えます。

また緑区における「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を構築していくため、自立支援協議会「精神部会」を開催し、アセスメントや計画を検討していく企画を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況により中止となり、今年度は構築に向けた動きを取る事ができませんでした。次年度は、社会状況に左右されず、構築に向けた企画や運営を心がけ、準備を進めていきたいと考えます。

さらに退院サポート事業の「幹事区」として、定例部会の開催や研修開催の企画運営に携わってきました。今年度新任の事業支援員に向けての事業説明や研修会の実施、「地域評価シート」の内容の検討、また次年度の定例部会の開催方法についての協議も行い、「ブロックごとの開催」の提案に至っています。

また緑区では「地域評価シート」を基にした独自のアンケート調査を、区福祉保健センターと基幹相談支援センターに向けて依頼し、地域課題の抽出や、今後の協議の場、地域作りに活かす目的です。

\* 「退院サポート幹事区会」9回実施（内1回 zoom 開催）

\* 「精神障害にも対応した地域ケアシステム構築に関わる説明会(モデル区報告、協働活動説明)」参加

### 4. 自立生活アシスタント事業

※統計については【資料2】参照

今年度の自立生活アシスタント事業の年間登録者24名、内新規登録者9名となり、新規の方を増やすことに注力しました。終了者は5名で、多くの方が目標達成によって終了することができました。終了者の中には約10年に及ぶ長期の支援をしていた方もおり、日中活動場所に繋ぎ上手く定着することが出来たケースなど、目標達成による終了を迎えることができました。

最近の傾向として、高齢の親と同居しているケースも多く見られ、その方を支援する上では高齢分野との連携が特に重要になってきています。自身も障害を持ちながら、親の介護や親の支援者とのやり取りをすることは、当事者にとっては大きな負担となります。親のケアマネージャー等と情報共有をすることで、現状をより把握することができ、今後の見通しを考える上でも助けとなりました。8050問題は着実に進んでおり、今後もより一層高齢分野との連携が重要となってくると考えます。

服薬管理が難しく入院となったケースでは、病院相談室、そして家族と上手く連携することができ、入院につなげることができました。体調が不安定となり連絡がとれなくなったケースでは、最悪の場合を想定し、自宅開錠を視野に入れた対応をしました。特に大事には至りませんでした。地域生活を支える自立生活アシスタント事業では、最悪を想定した対応が重要だと考えます。

現在支援している方の中にも、障害の受容が難しい方がいます。国の制度である自立生活援助事業は、対象として「手帳など障害者であることの確認が必要」です。精神障害の特性といえる、障害受容の難しさを持つ方に対しては、柔軟に支援ができる自立生活アシスタント事業が適しており、事業の必要性を認識しています。

### \*\*\*【普及・啓発活動】\*\*\*

精神の障害に対する偏見や差別はまだ根強く、その為地域での生活に支障があると感じている当事者・ご家族は多いのが現状です。当センターの責務として、地域に対する「普及・啓発活動」は必須であり、継続して実施していく必要があると考えていますが、今年度は新型コロナ対策のためほとんど中止となっています。

#### 《講習会・研修会・相談会の開催》

- ① 「**家族教室**」 （区福祉保健センターと協働開催） →新型コロナ感染症対策のため中止  
対象：発症後間もない（5年未満）精神障害者の家族  
内容：統合失調症について、制度、リハビリ、家族対応、社会資源、みどり会案内
- ② 「**地域の支援者、市民向けの研修会、勉強会**」 →新型コロナ感染症対策のため中止  
対象：居宅介護事業所の職員、地域ケアプラザ職員、高齢者施設職員、市民の方等  
内容：生活支援センターの紹介、精神障害の理解とその対応について、当事者発表等
- ③ 「**精神科医療機関における講座、当事者活動との協働**」 →新型コロナ感染症対策のため中止  
地域移行地域定着支援事業と絡めて、医療機関や入院中の患者への普及啓発活動実施
- ④ **その他以下の地域で開催されている定例会議等にオブザーバーとして参加** →中止  
「第一団地情報支援会」・「個別レベル地域ケア会議」・「包括レベル地域ケア会議」「民生委員児童委員・介護支援専門員情報交換会」等  
参加者：町内会役員、民生委員、ケアプラザ職員、区福祉保健センター高齢担当等

#### 《市民向けのイベントへの参加》

- ① 「**緑区役所障害者週間イベント**」
  - \* 実行委員会（開催に向けた打合せ3回、振り返り1回実施）
  - \* 開催：12/1～12/4 場所：緑区福祉保健センター1階展示室
  - \* WEBにてイベント開催と同時に、支援センターおよび緑区内各事業所紹介の動画配信

### \*\*\*【その他】\*\*\*

#### 1. 緑区自立支援協議会「精神部会」

令和元年度、自立支援協議会の専門部会として「精神部会」を立ち上げ、「精神医療について理解を深め、みんなで支える地域をつくる」を目標とし、現場での悩みや関わり方の難しさなどの共有、地域で考える課題の抽出などを行いました。その内容や意見などをもとに、今年度は「誰もが高齢分野と連携出来る、そして誰もが精神や障害分野と連携出来る」をテーマに、地域ケアプラザと協働し、緑区の地域づくりについての企画を考えました。しかし、新型コロナ感染症の拡大している状況により中止としたため、今回企画した内容は来年度に持ち越しとしました。コロナ禍においても中止をしない内容や運営を検討し、再調整を行っていきます。

#### 《企画した活動内容》

- ・ 第1回「**地域ケアプラザを知る**」
  - 内容：高齢分野だけでなく、地域と密接な機関であり、その動きや機能を再確認することで、障害分野と高齢分野とが相談しやすい関係性を築いていく
  - 講師：地域ケアプラザ職員
- ・ 第2回「**地域ケアプラザが進める“地域包括ケアシステム”を知る**」
  - 内容：精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、すでに地域ケアプラザが進めている地域包括ケアシステムを学び、緑区版の精神障害者にも対応した地域包括ケアシ

システムを地域で検討していくきっかけにする

講師：地域ケアプラザ職員

・第3回「地域ケアプラザ見学」または「事例検討」

## **2. 職員資質の向上・人材育成**

より質の高い支援の提供を目的に、外部研修への参加奨励、支援センター内部での職員研修会等を実施し、人材育成の一環として職員の資質と知識の向上や対人援助職としてのメンタルケアやモチベーションの維持に努めました。研修会での講師やインストラクター等について外部から依頼を頂いた際には、双方の人材育成の視点から、積極的に参画しました。

また、緑区生活支援センターの特記すべき点として、「新人職員の育成」について挙げられます。これについては入職した新人職員にはそれぞれに担当職員をつけ、定期的な振り返りを実施しながら職場内スーパービジョン体制を取っていく形が、しっかりと体系化し定着しています。先輩職員に相談するという土台作りが出来ていることで、経験を積み重ねても壁にぶつかった時には「相談できる」という意識が、職場内に出来ていると考えます。

職員会議においては、事例の共有とその検討から、各職員への気づきへと繋げる形を、職員同士が自然な形で理解できており、会議においてもグループスーパービジョンを実践することが出来ています。

《今年度支援センターで実施の職員研修、勉強会等》

- \* 「意思決定支援・権利擁護・障害者虐待防止法について」
- \* 個人情報保護研修「個人情報の漏えい防止」
- \* 「生活困窮者世帯等への食支援事業」講師：緑区社会福祉協議会
- \* 「新型コロナウイルス感染症対策」緑区福祉保健センター福祉保健課健康づくり係
- \* 「神奈川県精神医療人権センターについて」理事長他
- \* 支援困難事例について、職員会議、職員ミーティング等における「事例検討」5回実施

## **3. 実習生の受入れ**

将来の福祉の現場を担う新人育成の一環として、例年通り実習希望の学生の受け入れを積極的に実施する予定でいました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校側からの中止依頼などもあり、今年度の受け入れは0名でした。

来年度の実施に向け、安全かつ丁寧な指導を行えるよう、学校側と実施のあり方を協議し、センターでの実習のあり方や感染症予防対策を担当者間で協議し、コロナ禍における実習生の受け入れ体制を整えていきます。

※受け入れ予定していた実習生：精神保健福祉士養成課程、看護師養成課程、横浜市新人職員等  
受け入れ予定人数：26名 のべ実習予定日数：87日

また、今年度は緑区内の地域活動支援センターの新人職員に対して、生活支援センターの役割、緑区の地域性、自立支援協議会の状況などを講義し、緑区を知ってもらう研修会を実施しました。

## **4. 安全管理・災害対策**

安全管理に関しては、利用者個々の日々の様子を意識し、不穏時、緊急時の対策等について日頃の職員ミーティングや職員全体会議に於いて検討、対応策を講じました。

災害対策は、緑区役所との「福祉避難場所に協力する協定」に基づき、万一の災害時対策として、災害備品（発電機、サーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）と災害用備蓄品を整備し、使用方法等職員全体で確認する等、避難所としての整備を固めました。



合築の地域活動ホームとは年 2 回の「合同避難訓練」の実施を行い（今年度は新型コロナ対策のため 1 回の実施）、災害時や不穏者への対応方法の共有や、双方の事業所の早朝・夜間勤務体制、緊急時連絡体制の確認等を行いました。また、有事に備えての「福祉避難場所連絡会」に参加して（今年度は中止）、緑区高齢障害支援課、総務課の担当者と水害の対策などの話し合いを実施するなど、利用者が安心して支援センターを利用して頂けるよう、合築の建物全体の問題として安全管理・災害対策に取り組んでいます。

また緑区社協役員会、定例会では、大規模災害時を想定した訓練の一環として「緑区内災害緊急時連絡用回覧板」の取り組みを継続的に実施しており（今年度は新型コロナ対策により見合わせ）、地域の横の繋がりと近隣施設との顔の見える関係作りに繋がりました。また中山町地域防災訓練（今年度中止）では、地域での有事における連携体制の確認をするなど、大規模災害時など、万一来て備えて具体的な備えをすると共に、地域や近隣福祉施設との連携の強化に繋がっています。

## **5. 衛生管理**

年 2 回、清掃業者による館内全体の清掃、及び月 4 回近隣地域作業所による清掃（委託）、毎月 1 回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯を行い衛生管理に努めました。特に調理室の衛生や調理に使用する布巾、タオル等については食中毒防止の観点からも清潔を保つよう徹底しました。またノロウイルス、新型コロナウイルスの対策として、手洗いの推進、入口自動ドア前、トイレ出入口付近、調理室前等に手指の消毒液を設置、開館、閉館時、夕食サービス終了後に調理室・食堂のテーブル、手すりや椅子等の消毒を念入りに実施しました。また汚物処理方法のマニュアルを職員で共有するなどの予防に努めました。

## **6. 新型コロナ感染症対策の実施**

今年度は特に、新型コロナ感染症予防のため、出来る限りの工夫と対策を実施しながら、センターの運営を行いました。

### **【利用者】**

- ・ 来館時の検温、手指消毒、マスク着用などの徹底
- ・ 夕食サービスの利用における人数制限の設定
- ・ 入浴、洗濯の事前予約制度の設定
- ・ 飲食や密を避けるため、プログラムや行事等の実施検討又は中止
- ・ 利用者の健康状況や様子の見回り

### **【館内】**

- \* 開館・閉館時、食事前後、また適宜に館内の消毒実施
- ・ 空気清浄機等の設置（フリースペース 3 台、職員室 1 台、相談室 各 1 台、休憩室 1 台）
- ・ フリースペース、相談室、静養室など換気や消毒（手指消毒用アルコールの設置）
- ・ 飛沫防止のための設置物  
ビニールカーテン（受付）、アクリル板（食堂各テーブル、相談室、職員室、受付）
- ・ 情報発信、予防啓発のチラシ等掲示

### **【職員】**

- ・ 出勤前と勤務前の検温、手指消毒、マスク着用の徹底
- ・ 情報共有（県や市からの情報など）
- ・ 共有物の消毒
- ・ 休憩時間後の休憩場所の消毒
- ・ 家族の体調不良についての報告

【資料1】

令和2年度 緑区生活支援センター 年間運営状況

※（）内…昨年度実績

開所日数		307日	
登録者数	令和2年度登録	26(34)名	
	全登録者数	1296(1270)名	
利用者数	本人	2343(3694)名	7.6(11.6)名/日
	家族	167(319)名	0.5(1.0)名/日
	ボランティア・関係機関	72(213)名	0.2(0.7)名/日
相談支援	電話相談	6032(6593)件	19.6(20.7)件/日
	面接相談	624(759)件	2.0(2.4)件/日
	訪問・同行	450(608)件	1.5(1.9)件/日
	非構造面接	356(298)件	1.2(0.9)件/日
	嘱託医相談 43回実施	28(13)件	0.7(0.3)件/回
	心理士相談 10回実施	13(48)件	1.3(1.1)件/回
各種サービス	夕食サービス・週3回提供	875(1271)名	7.4(8.4)名/日
	入浴サービス	191(375)名	13.9(31.2)名/月
	洗濯サービス	96(325)名	8(27.0)名/月
	インターネットサービス	36(24)名	0.1(0.1)名/日

【資料2】

1. 退院サポート事業 年間実績（延べ）

2年度 個別支援者数 （退サポ：14名 地域移行支援：2名）						
退院サポート事業	支援継続	10名	退院者	3名	アパート設定	1名
	退院後フォロー	3名			自宅	1名
	相談中	4名			GH	0名
	支援終了	4名			生活訓練施設	1名
（支援センター支援へ移行1名、計画相談へ移行1名）						
地域移行支援	退サポへ移行1名	支援継続1名				
2年度 啓発活動 計1回（元年度16回）						
病院	・患者対象：1回（元年度12回） ・院内職員対象：0回（元年度3回）					
関係機関・地域	・関係機関：0回（元年度1回）					

《普及・啓発活動》

- \* 鶴見区生活支援センター実施の「日吉病院共同活動」患者対象に参加
- <新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止、延期になった活動>
- \* 「あさひの丘病院 キャラバン隊かめ 病棟訪問」患者、病院職員対象
- \* 「あさひの丘病院 未来クラブ」患者、病院職員対象
- \* 「各担当病院への挨拶と退院サポート事業説明」

2. 自立生活アシスタント事業 年間実績

※ ( ) 内…昨年度実績

2年度支援者数		登録者	24 (18) 名	相談中	3 (8) 名	
支援内容	面接	47 (26) 回	心理情緒	500 (368) 回	衣食住	403 (209) 回
	訪問	156 (139) 回	医療健康	478 (319) 回	対人	206 (141) 回
	同行	30 (32) 回	消費生活	226 (138) 回	就労	96 (66) 回
	ケア会議	11 (7) 回	関係機関との連携	68 (41) 回	余暇	27 (9) 回

【資料3】

令和2年度 緑区生活支援センター自主事業報告

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
5回	手芸サークル	ミーティング、作品の作成	支援センター	35
6回	余暇支援	カードゲーム、脳トレ	支援センター	14
7回	センターソフトボール	練習	白山ハイテクパーク	68
2回	ソフトボールミーティング	ミーティング	支援センター	20
1回	メンバーミーティング	センターについて	支援センター	5
43回	嘱託医相談	精神科医師による相談会	相談室	28
10回	心理士相談	心理士による相談会	相談室	13

【季節の行事】

月	プログラム名	内容	場所	参加人数
3月	ひな祭り	ひな人形飾り作り	支援センター	3

【地域交流】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
1回	あおぞら合同防災訓練	避難訓練・消火器訓練	支援センター・地活全館	50

【地域支援事業・地域普及啓発事業・その他】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
4回	出張個別相談会	地域の方に向けて相談会	東本郷ケアプラザ	4
7回	家族会定例会・役員会	オブザーバー参加	地域交流室	63